



日本特殊陶業株式会社

愛知県名古屋市の日本特殊陶業は「これまでの延長線上にない変化」を目指しESGに取り組みます。

組織横断プロジェクト活動によりCN達成を加速

CN取組の内容

● SXPJ(サステナビリティ・トランスフォーメーション・プロジェクト)のスタート

2021年5月に2050年のカーボンニュートラルを宣言。その加速に向けSXPJをスタート。ICP ※1、社内環境ファンド、サプライチェーンの排出量削減の取組を開始しました。

● 各種イニシアティブへの参加

TCFD、CDPを始めとしたイニシアティブへの参加。またSBT取得やZERO EMISSION CHALLENGEなど外部から取組を評価されています。

● 排出量の削減率を役員報酬の評価指標に追加

役員報酬の非財務指標目標については、持続的な成長および企業価値向上への取り組みの成果を反映し、事業ポートフォリオ転換を促進するため、非内燃機関連事業売上比率およびCO2排出量削減率をそれぞれ指標としています。

ここがポイント

独自
施策

インターナルカーボンプライシング導入と社内炭素税の徴収

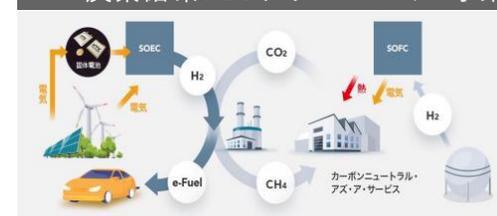


インターナルカーボンプライシング※1を導入し、毎月部門毎の排出量に応じた金額を社内炭素税として「社内環境ファンド」へ徴収し、排出量を削減する設備投資をする際に補助金として充当することで排出量に対する社内の意識改革を実施。

スコープ3削減の取組をスタート

GHG排出量の9割以上を占めるスコープ3を削減するためにサプライヤーのGHG排出量の現状把握をスタート。7月までに650社を対象に本活動に関する説明会を開催済。

炭素循環CCUソリューション事業



酸素濃縮装置、燃料電池で培った技術を活かし、CO2回収し、発生させたH2を合成、メタネーションによる炭素循環を実現するための新たなソリューション。国内のCN達成に貢献するべく早期製品化を目指す。

※1) ICP=インターナルカーボンプライシング・企業が自主的にCO2排出の価格を設定し、排出量の削減推進や投資判断等に活用